

防虫ネットを活用した夏にらのアザミウマ類防除の実証

要約

紫色LEDによる防除効果は判然としなかったが、防虫ネットの導入により、収穫期間中の農薬の総散布回数は1回少なく、総成分回数は3回少なかった。アザミウマ類の頭数は減少し、食害葉も少なかったため、高い防除効果が見られた。また、遮熱資材による地温上昇抑制効果も確認できた。

○ 展示のねらい

夏にらの収穫が行われる7～8月はアザミウマ類が多発する時期あり、食害によって商品価値が下がるため、定期的な化学農薬の散布が行われている。しかし、登録農薬が少ないことや近年の農薬価格高騰もあり、化学農薬の使用低減が求められてる。また、猛暑の中での薬剤散布作業になるため身体的・心理的な負担も問題となっている。

そこで、アザミウマ類対策として環境負荷軽減と省力化が図られる複数の技術を組合せ、農薬の使用低減と省力性、経費節減効果を検討し、農薬以外の防除資材の効果を検証する。

○ 主な成果

(1) アザミウマ類の防除効果

赤色防虫ネットを導入したことで、ハウス内へのアザミウマ類の飛び込みを抑制することができました。農薬散布回数は従来と同程度でしたが、成分回数は3回少ない結果となりました。また、遮熱フィルムにより地温の上昇が抑えられ、生育は順調でした(表1)。

(2) 高品質な夏にら出荷

従来の栽培管理では、かすれ状の食害痕がみられて規格を下げて出荷しましたが、防虫ネットの展張により、食害を防ぐことができ最優良規格で出荷できました。生産者の興味・関心が強く、普及性は高いと考えられます。(写真1)

表1 アザミウマ類の頭数推移

調査日	6/8	6/29	7/18	7/30
防虫ネット	0	0.2	0	0
従来の管理	0	0.8	0	0
調査日	8/8	8/23	9/11	9/27
防虫ネット	0	0	0	1
従来の管理	0.2	22.1	2.5	10.6



写真1 アザミウマ類の被害程度
(左：従来の栽培管理 右：防虫ネット有り)

○ 今後の方向性

防虫ネットの設置後は必ず薬剤防除を行い、ハウス内のアザミウマ類を徹底的に防除することが重要である。さらなる化学農薬低減のため、天敵を使用する場合は、天敵に影響の無い農薬を使用する。

実施機関：上都賀農業振興事務所経営普及部

実施場所：日光市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315